

AIS 創設前後のこと

真鍋龍太郎

(2000年～2001年会長)

ご存知のように AIS (Association for Information Systems) は、情報システムに関する世界の研究者、教育者の組織である。1995年にそれまで主に ICIS (International Conference on Information Systems) で顔を合わせていた各国の人々がアメリカにベースを置いて創設した。筆者は幸いにもこの学会が創設されることをその直前に知ることができて、立ち上げのためのビジネス・ミーティングにも参加でき、創設時の会員になれた。そのあたりのことをこの機会に残しておこう。

1994年8月、筆者は APO の仕事でパキスタンに行く途中で立ち寄ったシンガポールで、当時は NUS にいた Gay Gable (Queensland Univ. of Technology) と再会した。数時間をともに過ごしている間に、世界規模の情報システム学の学会を創設する動きがあることを話してくれた。Pittsburgh 大学の Bill King が中心になって、ヨーロッパやアジア太平洋地域の人たちも一緒に動いているとのこと。4カ月後にはこれまでにない規模の情報システムの学会を立ち上げようというのだった。Gay は「知らぬは日本ばかりなり」の状況を心配して教えてくれたのだ。日本の誰に声をかけるべきか躊躇していたらしい。そのころ彼は、情報システムの研究者の Directory のアジア太平洋地域版を編集しており、それに協力していた筆者に伝えてくれたようだ。これは大変に有難かった。そのときに知ってないと日本からは誰も積極的に参加せずに発足してしまうところだった。

Bill King は、1985年ごろに大阪で開かれた TIMS の International Meeting の折に会ったことがあるのですぐにメールしたところ、日本からは倉谷義郎先生(長いことアメリカにおられ、その当時は筑波大学に在籍されていた)が発起人になっているので、倉谷先生とコンタクトせよとのこと。

筆者は倉谷先生にも面識があった。私が慶応の大学院生か助手のころ、東京で国際会議があり、日本能率協会がこの会議に参加した数名の著名な経営科

学の専門家を講師にして1週間のセミナーを企業人向けに開いた。倉谷先生はこのセミナーのコーディネータと通訳を務められ、私はこのセミナーの記録のノートを作る仕事をしていたので、倉谷先生とは1週間お付き合いさせていただいた。またその後に、サバティカルで日本に滞在された折には成城に借りておられたマンションにお邪魔したこともあった。ただ失礼ながら倉谷先生は日本の情報システム学界には通じておいでではないと考え、私に間もなく開かれる新学会のビジネス・ミーティングには先生に代わって出席させていただけないかとお願ひした。倉谷先生は King とは古い付き合いで、新学会設立の発起人になるように頼まれたのだという。幸い倉谷先生は、私に全権を任せると言ってくださり、King さんにもその旨を伝えてくださった。

AIS の創設のための Business Meeting は、1954年12月にカナダの Vancouver での ICIS の折に、各国の人々が集まって開かれ、新学会は翌55年1月に立ち上げられ、私もその創設メンバーになった。この学会は IS の研究・教育に携わる個人が構成する学会で、OR の世界の IFORS (International Federation of Operational Societies) のように、各国の学会の連合体というわけではない。したがって、どこかの機関の決定に従うことはない。日本では誰も知らないのなら、よし頑張るやれと思って動いておいてよかったと思っている。

AIS は最近では Affiliated members という制度を作って各国の学会と手をつないでおり、JASMIN も Affiliated member になって協力関係を持っている。ただ残念ながら、JASMIN の会員は千人を超えるのに、AIS の会員になって世界の IS 研究と教育の潮流に関心を示したり、そのなかで活動しようという方々がきわめて少なく何十人かしかいない。JASMIN あるいは日本の情報システム界のガラパゴス化を防ぎ、また JASMIN の次の10年、20年のためにも、多くの方々にぜひ関心を持っていただきたく書いた次第である。